

# 弘前から 世界へ

トークイベント

(仮称)弘前市芸術文化施設開館準備事業

美術館が開く  
創造性と可能性

2018年2月10日(土) 14:00 ~ 16:00

弘前中央三8階 スペース・アストロ

※参加無料(定員150名)

※手話通訳あり



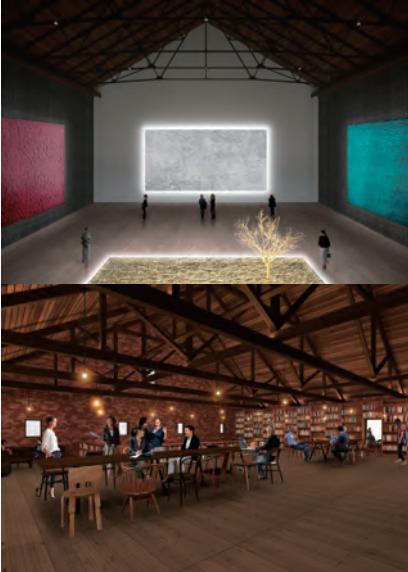
出演

杉本康雄 (青森県立美術館館長、みちのく銀行取締役会長)  
南條史生 (森美術館館長/(仮称)弘前市芸術文化施設 総合アドバイザー)  
田根剛 (建築家 ATELIER TSUYOSHI TANE ARCHITECTS)  
司会:木ノ下智恵子 (大阪大学21世紀懐徳堂准教授/(仮称)弘前市芸術文化施設 学芸統括)

主催 弘前芸術創造株式会社  
共催 弘前市  
協力 青森県立美術館  
問い合わせ

弘前芸術創造株式会社/エヌ・アンド・エー株式会社内(広報事務局)  
TEL: 070-1007-6144 (平日 10:00 ~ 17:00)  
FAX: 03-5545-3611  
E-mail: hirosaki@nanjo.com

Photo: Masayuki Hasegawa



©ATELIER TSUYOSHI TANE ARCHITECTS



### (仮称) 弘前市芸術文化施設

JR 弘前駅と弘前公園の中間に位置する吉野町煉瓦倉庫をリニューアルし、美術館を核とした文化交流施設として 2020 年度に開館を予定しています。「赤煉瓦倉庫の魅力を最大限活用し、現代アートのクリエイティブハブ」となることを目指し、現在は開館に向けて準備を進めています。

岩木山を望む街並みと四季折々の風景の中に古城や寺社仏閣と近代建築が残る街。学園都市の佇まいの中に津軽塗やブナコなどの伝統工芸の息づく街。温故知新の精神によって育まれてきた、豊かな歴史遺産と自然に彩られた弘前は、青森の中でももっとも文化的な街のひとつといえるのではないかでしょうか。

街に残る重要な歴史遺産として多くの人々に見守られてきた吉野町煉瓦倉庫は、明治期に酒造工場として建造され、戦後はリンゴを原料としたシードルを日本で初めて生産するなど、時代と共に人々と歩み、今でも多くの人に愛されている建造物です。そんな赤煉瓦倉庫が 2020 年春、改修・補強工事を終え 100 年余の時を経て、美術館として新たな次代の幕を開けます。

本トークイベントでは、出発点となる赤煉瓦倉庫の建築改修方針や運営方針の提案報告とともに、ゲストをお迎えして、「創造のエコシステム」を実現するためのビジョンについて対話を繰り広げます。

日時  
会場

2018 年 2 月 10 日 (土) 14:00 ~ 16:00 (開場は 13:30)

弘前中三 8 階 スペース・アストロ (青森県弘前市土手町 49-1)

JR 弘前駅 (中央口) から

歩 20 分

土手町循環バス

駅前乗り場より「蓬莱橋 (ほうらいばし)」下車 徒歩すぐ

タクシーで 10 分

弘南鉄道大鰐線「中央弘前駅」から 徒歩 4 分

お車の場合 中三「徒町 (おかちまち) 駐車場」をご利用の方は、中三営業時間内 (10:00 ~ 19:00) サービスとなります。当日 8 階会場受付で配布いたします本イベントの「参加証」および、駐車券を 1 階案内所にてご提示ください。

※駐車場は台数に限りがございます。あらかじめご了承ください



参加料

無料

定員

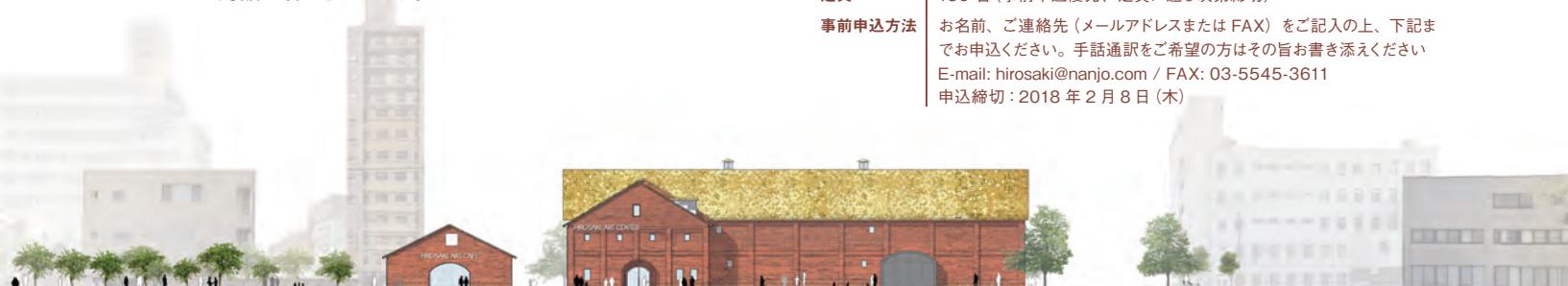
150 名 (事前申込優先、定員に達し次第締切)

事前申込方法

お名前、ご連絡先 (メールアドレスまたは FAX) をご記入の上、下記までお申込ください。手話通訳をご希望の方はその旨お書き添えください

E-mail: [hirosaki@nanjo.com](mailto:hirosaki@nanjo.com) / FAX: 03-5545-3611

申込締切: 2018 年 2 月 8 日 (木)



### 出演者プロフィール



杉本康雄

(青森県立美術館館長、みちのく銀行取締役会長)

1947 年青森県生まれ。69 年に高崎経済大学経済学部を卒業し、株式会社弘前相互銀行に入行。みちのく銀行根城支店長、国道支店長、業務推進部長を経て、取締役業務推進部長 (96 年)、取締役企画調整部長 (97 年)、常務取締役 (2001 年)、代表取締役頭取 (05 年)、代表取締役会長 (13 年) 等を歴任し、16 年より現職。15 年より青森県立美術館館長も務める。



田根剛

(建築家 / ATELIER TSUYOSHI TANE ARCHITECTS)

1979 年生まれ。フランス・パリを拠点に活動。2006 年、エストニア国立博物館の国際設計競技に優勝 (16 年に開館) するなど国際的な注目を集め。場所の記憶から建築をつくる「Archaeology of the Future」をコンセプトに、世界各地でプロジェクトが進行中。フランス文化庁新進建築家賞、第 67 回芸術選奨文部科学大臣新人賞など多数受賞。



南條史生

(森美術館館長 / (仮称) 弘前市芸術文化施設総合 アドバイザー)

1949 年生まれ。国際交流基金 (78 ~ 86 年) 等を経て 2006 年より森美術館館長。過去に「ヴェニス・ビエンナーレ」日本館コミッショナー (97 年)、「ターナーブラザーズ」審査委員 (ロンドン・98 年)、「横浜トリエンナーレ」(01 年) および「シンガポール・ビエンナーレ」(06・08 年) アーティスティックディレクター等を歴任。近著に『アートを生きる』(角川書店)。



木ノ下智恵子

(大阪大学 21 世紀懐徳堂准教授 / (仮称) 弘前市芸術文化施設 学芸統括)

1971 年生まれ。「アートエリア B1」運営委員、「岡山芸術交流 2016」パブリックプログラム・ディレクター、「六本木アートナイト 2016」メインアーティストキュレーター、「第 9 回恵比寿映像祭」オフサイトキュレーターなど。現代美術家の個展、若手芸術家育成プログラム、アートマネジメント講座、都市や近代産業遺産のアートプロジェクトなどを多数手がける。